

## 健康でいきいきした社会を実現するヘルスケア技術

Healthcare Technologies to Realize Health-Smart Communities

## 巻頭言

## 異次元ヘルスケアの創造に向けて

Toward Creating New Approaches to Healthcare

先進国では少子高齢化が進行し、わが国は2010年に65歳以上の人口の比率が23%を超え、2020年には30%に達すると言われています。新興国でも、先進国に遅れるものの確実に高齢化社会が訪れます。また、核家族化や単身世帯の増加などライフスタイルの多様化に伴い、食生活や生活様式が変化し、肥満や糖尿病など生活習慣病の増大が社会問題となり、健康志向や食の安全がキーワードになっています。更に、高度情報化社会では、ライフログや遺伝子情報などの個人情報、セキュリティを確保したうえで、ヘルスケアサービスに有効に活用しようという動きも出てきています。

東芝は、“みんなが健康でいきいき生活できる社会”を実現するために、“予防”、“診断・治療”、“予後・介護”、及び“健康増進”の四つの領域で、ヘルスケアの好循環を創出するため、新たな機器、サービス、及びソリューションの開発を進めています。このなかで、当社は“Data-Driven Healthcare”という考え方を柱の一つと位置づけています。これは機器単体や個別のサービスで完結することなく、ヘルスケアに関するデータを収集して、蓄積して、解析して、活用するという一貫したエコシステムを構築し、個人、家族、社会、そして次世代の人々の健康につなげていくものです。われわれは一人ひとり、異なる遺伝子を持ち、異なる環境で、日々異なる行動をしています。それらの因子を様々な手段で獲得し、そのデータに基づいたソリューションを提供していきます。

具体的な取組みとして、文部科学省が主導する「革新的イノベーション創出プログラム」の枠組みの中で、国立大学法人 東北大学との協働により高精度、低コスト、短時間でできるゲノム解析技術を開発しています。また、活動量計や生体センサなどをはじめとした各種センサの開発、ゲノムやライフログデータを収集、分析する技術の開発も進めています。これらの技術を活用し、予防の領域では疾病発症予測や個別化予防を、予後・介護の領域では在宅サービスや、医療介護サービス、病院情報システム連携などを展開します。また、健康増進の領域では安全・安心な生活環境づくりや健康サポートに貢献していきます。更に、診断・治療の領域では前記のデータに加えて医療画像データを活用した診断サポートや、画像データに基づいて正確なビーム照射が可能な重粒子線がん治療装置などの開発も進めています。

この特集では、これらData-Driven Healthcareに向けた取組みの一端を紹介します。



金澤 博史  
KANAZAWA Hiroshi